

## アステラス製薬とピッツバーグ大学 萎縮型加齢黄斑変性に関する共同研究を開始 - アデノ随伴ウイルスを用いた遺伝子治療法の創出を目指す -

アステラス製薬株式会社(本社:東京、代表取締役社長 CEO:安川 健司、以下「アステラス製薬」と University of Pittsburgh(米国、以下「ピッツバーグ大学」)は、後眼部疾患の一つである萎縮型加齢黄斑変性の治療に対する開発候補品創出を目的として、アデノ随伴ウイルス(AAV)を用いた遺伝子治療に関する共同研究を開始しました。

加齢黄斑変性は、高齢者における中途失明の主要原因の一つです。特に萎縮型加齢黄斑変性は、網膜の黄斑部において網膜色素上皮細胞が徐々に変性し、重症化すると視力が著しく低下する疾患です。病変に至るメカニズムはいまだ十分に解明されておらず、臨床的に明確な有効性を示す治療法は確立されていません。

本共同研究では、後眼部疾患研究における世界的権威であるピッツバーグ大学医学部教授 Debasish Sinha 博士と、創薬ケイパビリティを持つアステラス製薬が協働して、創薬シーズの検証および最適化に取り組み、萎縮型加齢黄斑変性に苦しむ患者さんへ視力の維持や回復をもたらす可能性のある新たな治療選択肢の提供を目指します。なお、アステラス製薬は本共同研究で見いだされた開発候補品に対する開発・商業化に関する独占交渉権を有します。

Debasish Sinha 博士は、「人口の高齢化に伴い、萎縮型加齢黄斑変性による健康への悪影響とそれにかかる医療費は今後 10 年で劇的に増加するでしょう。進行性の滲出型加齢黄斑変性に対する効果的な治療法は開発されている一方で、現在、萎縮型加齢黄斑変性の有効な治療法や予防法は見いだされていません。アステラス製薬との協働により、革新的な治療法の開発に向けて前進できることを期待しています」と述べています。

アステラス製薬研究本部長の岩井晃彦は、「アステラス製薬では、「再生と視力の維持・回復」および「遺伝子治療」を研究開発戦略上の Primary Focus に位置づけています。開発中の細胞治療プログラムに加え、今回の共同研究を通じて、アンメットメディカルニーズの高い萎縮型加齢黄斑変性に悩む患者さんに治療手段を届けるための取り組みを加速することができるかと確信しています。私たちは、国内外の大学、研究機関およびバイオベンチ

ヤーなどとの提携やパートナーシップを通じて様々な優れたケイパビリティを積極的に取り入れながら、科学の進歩を患者さんの価値に変えるための革新的な医療ソリューション創出を目指していきます」と述べています。

以上

#### **ピッツバーグ大学について**

ピッツバーグ大学は、1787年に設立された研究型大学で、米国で最も歴史のある高等教育機関の一つです。ピッツバーグ大学は、北米の63の優れた博士号授与研究機関で構成される Association of American Universities (AAU、米国大学協会)に加盟しています。ピッツバーグ大学出身者らはこれまで、ポリオの撲滅、DNAの解明、臓器移植分野の世界的な牽引、テレビや重航空機の分野における先駆者的功績など、数多くの業績を残しています。

#### **アステラス製薬株式会社について**

アステラス製薬は、世界70カ国以上で事業活動を展開している製薬企業です。最先端のバイオロジーやモダリティ/テクノロジーの組み合わせを駆使し、アンメットメディカルニーズの高い疾患に対する革新的な医薬品の創出に取り組んでいます (Focus Area アプローチ)。さらに、医療用医薬品 (Rx) 事業で培った強みをベースに、最先端の医療技術と異分野のパートナーの技術を融合した製品やサービス (Rx+®) の創出にも挑戦しています。アステラス製薬は、変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの価値に変えていきます。アステラス製薬の詳細については、(<https://www.astellas.com/jp/>)をご覧ください。

#### **注意事項**

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品 (開発中のものを含む) に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

---

#### **お問い合わせ先:**

アステラス製薬株式会社  
コーポレート・アドボカシー&リレーション部  
TEL: 03-3244-3201 FAX: 03-5201-7473

University of Pittsburgh  
Amerigo Allegretto  
[aallegretto@pitt.edu](mailto:aallegretto@pitt.edu)